

[2014]九州大学情報統括本部年報 : 2014年度

<https://doi.org/10.15017/1560528>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2014, pp.1-, 2015. 九州大学情報統括本部
バージョン :
権利関係 :

第14章 図書館連携事業

14.1 図書館システム支援

- (1) 図書購入フローの見直しを行い、平成26年11月実施の財務会計システム更新に合わせて円滑に移行できるよう調整を行いました。(参考資料1)
- (2) サーバへの負荷を低減させるため、バックアップ対象の見直しや圧縮及びネットワーク環境の変更を行い、バックアップ構成の整備を支援しました。
- (3) 平成27年1月に図書館が新規設置したサーバの選定に助言を行い、シスログサーバ等の導入及び老朽化したサーバからのシステム移行を支援しました。

14.2 電子コンテンツサービス支援

(1) Shibboleth 認証サービスの安定運用

Shibboleth (学認) による電子コンテンツへのリモートアクセスについて、附属図書館及び認証基盤事業室と連携して対応した。主な事項は以下の通りです。

- ・利用者からの要望や障害報告への対応
- ・IdP 認証サーバの切替 (平成27年3月) に係る調整
- ・図書館 SP の脆弱性対応 (OpenSSL, bash 等) やソフトウェアアップデート
- ・新規 SP 接続設定 (3件): ジャパンナレッジ Lib, 医中誌 Web, Maruzen eBook Library

平成26年度、学術情報系の主要 SP について、本学構成員の Shibboleth 認証によるログイン回数は参考資料2の表1のとおりとなりました。(参考資料2, 表1)

(2) リモートアクセスサービスの提供

リモートアクセス可能な電子コンテンツについて14件の追加および変更作業を行いました。平成26年度、EZproxyによるリモートアクセス件数は参考資料2のグラフ1のとおりとなりました。(参考資料2, グラフ1)

(3) 不正利用への対応

電子ジャーナルの不正利用等による出版社からのアクセス停止措置が3件発生しました。これらについて、支線 LAN 管理者を通じて調査した利用状況を出版社へ報告し、アクセス制限の解除を行いました。

不正利用の対策として、リモートアクセスサービス (EZproxy) 経由で10分間に100 M以上ダウンロードした利用者のアクセスを停止する処置をしました。

(4) ウェブ文献管理ツールの提供

平成25年度に引き続きウェブ文献管理ツール RefWorks を提供し、平成26年度は参考資料2 グラフ2のとおり利用がありました。RefWorks を含めた文献管理ツールの活用法について、参考資料2表2のとおり、箱崎、伊都、病院、筑紫地区で23回の「文献整理法」講習会を附属図書館との連携により実施し、226名の参加者を集めました。

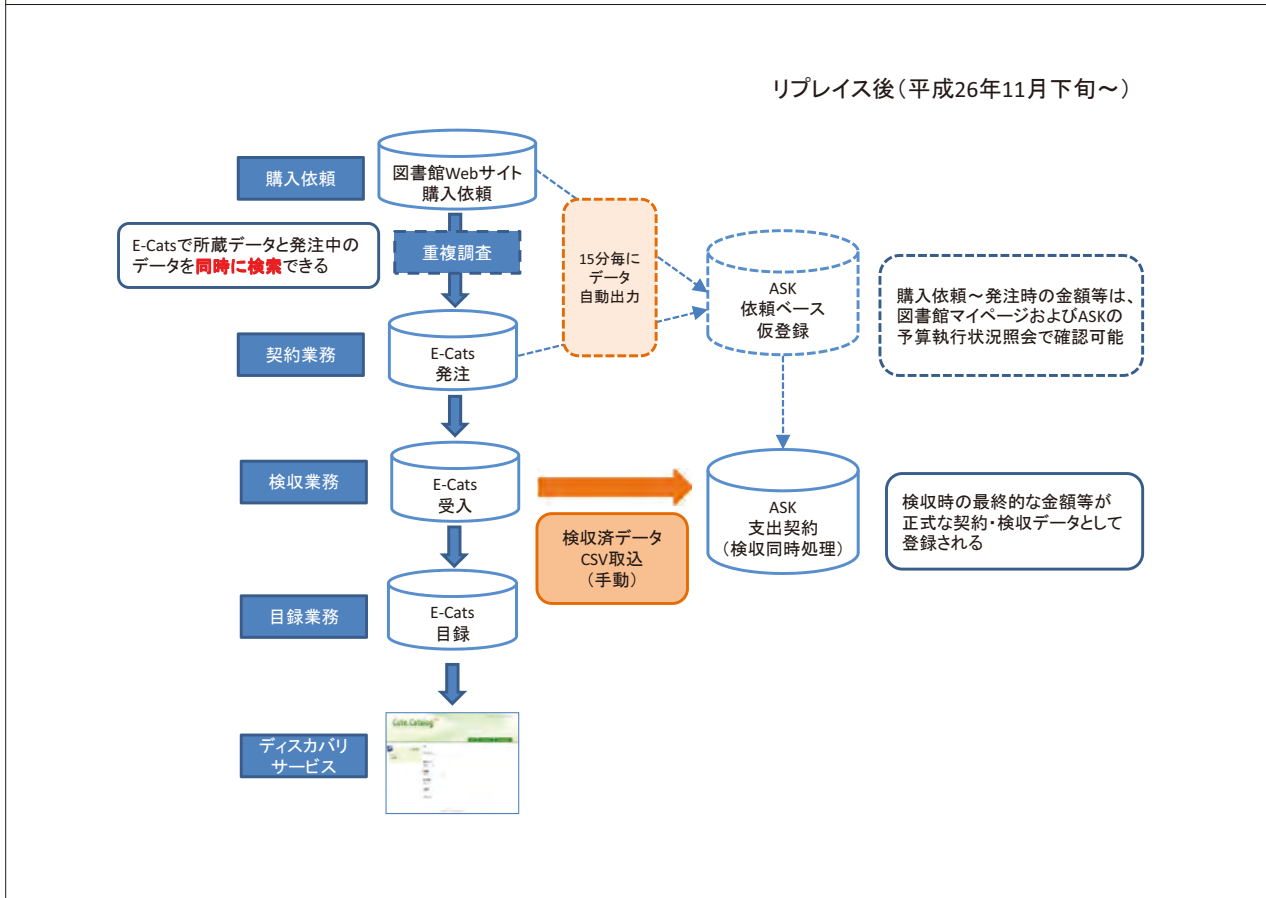
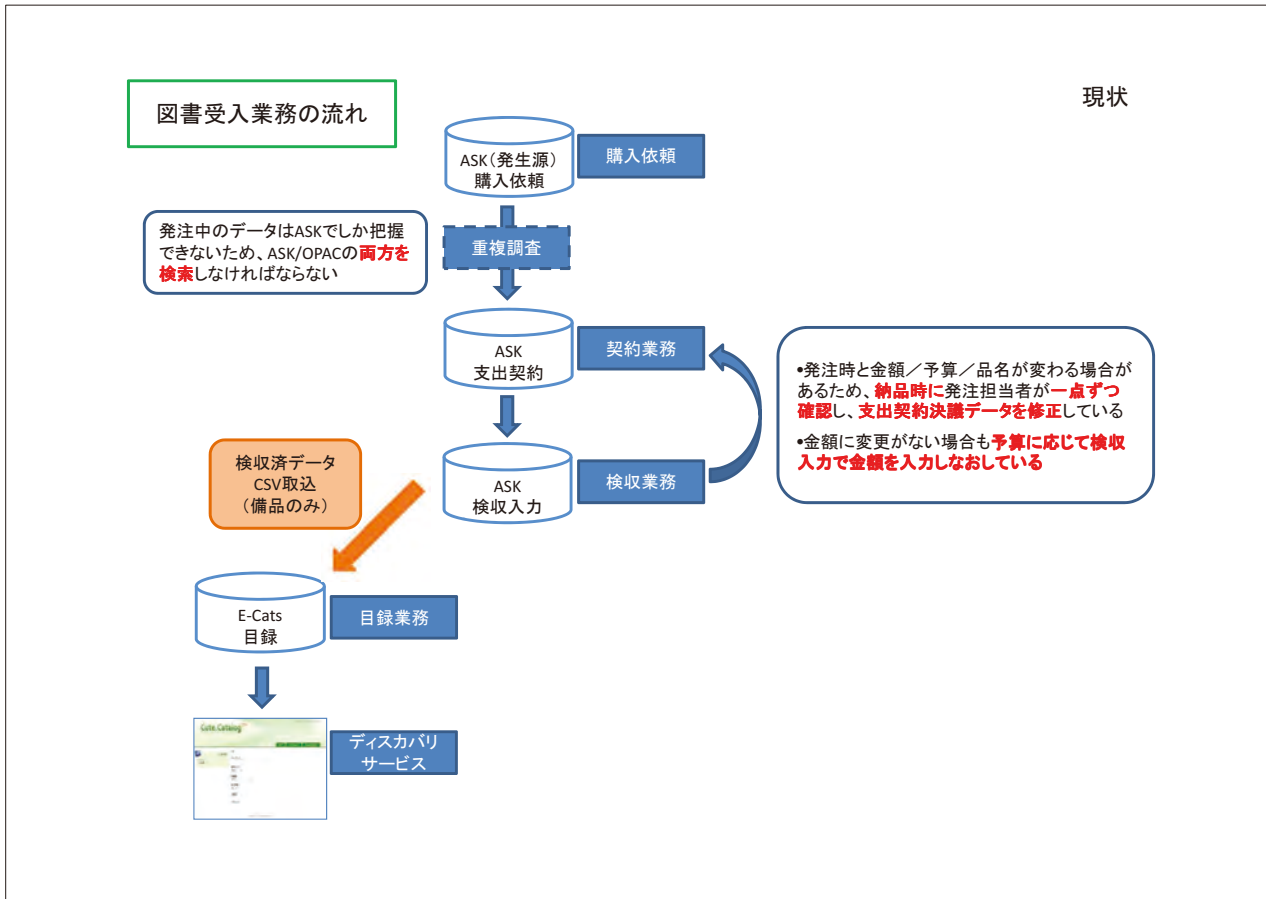
本学での研究及び学習行動に合った次世代文献管理ツールの提供方法について検討を行うため、代表的な文献管理ツール Mendeley, EndNote, RefWorks について比較調査を行いました。(参考資料2, 表2・グラフ2)

14.3 機関リポジトリ支援サービス

1. 機関リポジトリへ登録された論文情報について、研究者単位の一覧性を高めるため、大学評価情報システムのデータを定期的に受領し、機関リポジトリの論文情報と照合するシステムを整備しました。
2. 機関リポジトリと大学評価情報システムの今後の連携仕様について、大学評価情報室との意見交換を実施しました。

14.4 図書館での教育支援サービス

1. 附属図書館が部局とともに実施した新入留学生向け図書館ガイダンスで、学生用 SSO-KID の有効化、kitenet/edunet の接続、全学基本メールの転送など情報サービスの設定補助を行いました。また、図書館利用者が円滑に学内の情報サービスを活用できるよう、学生用 SSO-KID や教育情報サービスに関するマニュアルを整備し、図書館カウンターおよび情報サロンに配置しました。
2. 附属図書館による学習サポーター事業を支援し、図書館内での教育情報サービスに関する学生向けの相談サービスを実施しました。平成26年度の箱崎、伊都、病院地区における附属図書館への情報統括本部提供サービス関連の問い合わせのうち、235件を図書館学習サポーターが対応しました。
3. 教育情報システム iMac について、ゲストアカウントサービスの運用を見直すとともに、利用規約の更新に関わる調整を行いました。また、教育支援事業室と連携し、教育情報システム iMac からのネットワーク印刷の利用フローについて簡素化を図りました。
4. 情報セキュリティ環境向上のため、中央図書館内の教育情報システム iMac 等の学生用・検索用端末についてネットワーク配線の保護を行いました。



各種統計

表1：平成26年度 学術情報系の主要 SP Shibboleth 認証ログイン回数

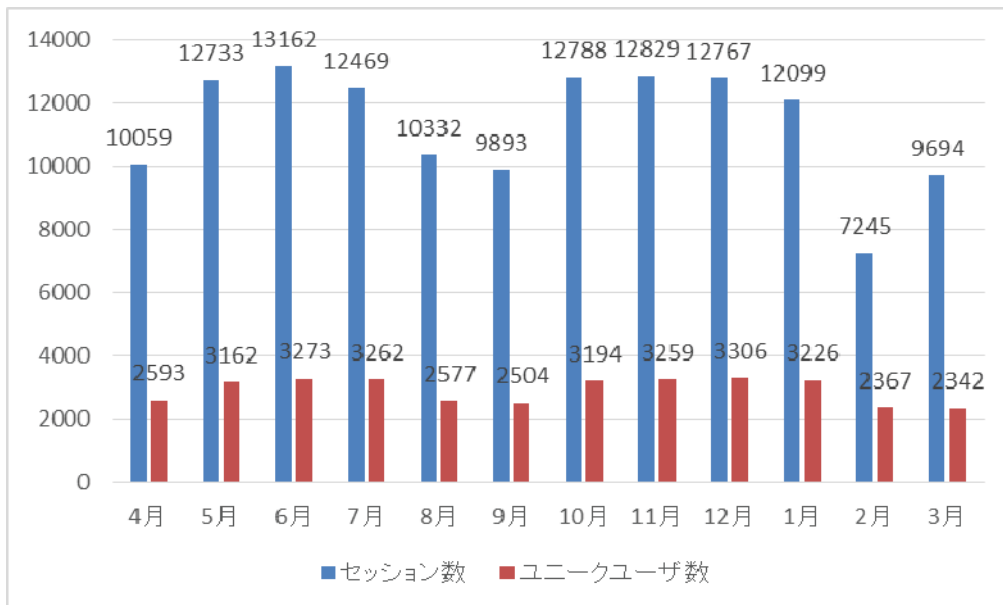
SP名	ログイン回数
CiNii	6348
Web of Science (Thomson Reuters)	4216
Science Direct (Elsevier)	2691
RefWorks	1674
JapanKnowledge	914
医中誌 Web	639

表2：平成26年度 文献管理ツールに関する講習会開催実績

	開催日	開催地区	参加者数
1	2014/7/8 17:00-17:50	伊都	20
2	2014/7/8 18:00-18:50	伊都	23
3	2014/7/9 17:00-17:50	筑紫	1
4	2014/7/16 17:00-17:50	病院	32
5	2014/7/16 18:00-18:50	病院	32
6	2014/7/17 17:00-17:50	箱崎	14
7	2014/7/17 18:00-18:50	箱崎	18
8	2014/12/1 17:00-17:50	箱崎	10
9	2014/12/1 18:00-18:50	箱崎	6
10	2014/12/3 16:00-16:50	病院	3
11	2014/12/3 17:00-17:50	病院	2
12	2014/12/4 17:00-17:50	筑紫	1
13	2014/12/4 18:00-18:50	筑紫	5
14	2014/12/8 17:00-17:50	病院	5
15	2014/12/8 18:00-18:50	病院	5
16	2004/12/9 17:00-17:50	伊都	10
17	2014/12/9 18:00-18:50	伊都	4
18	2014/12/11 17:00-17:50	箱崎	10
19	2014/12/11 18:00-18:50	箱崎	8
20	2014/12/15 17:00-17:50	伊都	3
21	2014/12/15 18:00-18:50	伊都	3
22	2014/12/16 14:00-14:50	病院	6
23	2014/12/16 15:00-15:50	病院	5

合計 23 回 参加者 226 名

グラフ 1 : 平成 26 年度 EZproxy 利用統計



グラフ 2 : 平成 26 年度 RefWorks 利用統計

